

220	和をもって貴しとなす
219	破れ鍋に綴じ蓋
218	笑う門には福来る
217	渡る世間に鬼はない
216	若い時の苦勞は買ってでもせよ
215	論より証拠
214	論語読みの論語知らず
213	ローマは一日にしてならず
212	労多くして功少なし
211	瑠璃も玻璃も照らせば光る
210	類は友を呼ぶ
209	樂は苦の種、苦は樂の種
208	樂あれば苦あり
207	来年のことを言えば鬼が笑う
206	弱り目に祟り目
205	寄らば大樹の陰
204	よしの髓から天井をのぞく
203	病は氣から
202	藪をつついて蛇を出す
201	柳の下にいつもどじょうはいない

ア	自分の狭い知識や経験だけで、広い世界や大きな問題についてを判断しようとする事。
イ	世間には、思いやりのない冷たい人だけでなく、困った時に助けてくれる親切な人もいる事。
ウ	将来のことはわからないので、あれこれ言っても仕方ないというたとえ。
エ	笑いが絶えない家は、自然と幸せが訪れる。また、どんなに辛い時でもくじけずに笑っていれば、幸せがやってくる。
オ	世の中は楽しいことばかりではないので、楽しいことの後には、必ず苦しいことが来るという事。
カ	不運なことや災難が、何度も重なって起こることのたとえ。
キ	若い時に苦勞しておく、その経験が後で役に立つ。だから若い時には進んで苦勞したほうが良いということ。
ク	病氣は氣持ち次第で、良くも悪くもなるということ。
ケ	どんな人にも、その人にぴったり合う相手がいるということ。また、そのような人と一緒になればうまくいく。
コ	長い時間と勞力をかけて初めて、大きなことを成し遂げることができるという事。
サ	偶然うまくいった時と同じやり方をしても、いつもうまくいくとは限らないということ。
シ	氣の合う人や似ている人は、自然に集まって仲間になるものだという事。
ス	才能や素質のある人は、どこにいても目立つということ。
セ	余計なことをして、かえって損をしたり、災難にあったりする事。
ソ	苦勞が多いわりに効果が少なく、報われない事。
タ	樂をしていると後で苦勞することになり、逆に、苦勞をしておく、後で樂ができるということ。
チ	頼りにする相手を選ぶときには、できるだけ力のある人を選んだ方がいいということ。
ツ	他の人と仲よくやっていくことが、何よりも大切だということ。
テ	書物をよく読んでいても、本質を理解していない。また、書物から得た知識があっても、実行が伴わない。
ト	議論するよりも証拠を示したほうが、物事をすっきり解決することができる。